

「支配せず仕え合う」

マタイ 20：25－28

堀田修一 25・7・27

I 「そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた。『あなたがたも知っているとおりの、異邦人の支配者たちは人々に対して横柄にふるまい、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています』：25。

1. アバムとエバが真の支配者である神に背き、罪を犯してから、神から離れた人間関係は、愛し合い仕え合う関係から、「支配し合う」関係に墮落しました。→「あなたは夫を恋い慕うが、彼はあなたを支配することになる（創世記3：16）。本来、人は神を中心とし、互いに愛し合う関係でしたが、力によって一方が他方を支配する関係になったのです。家庭では、互いに仕え合うのではなく、夫が妻を支配するか、妻が夫を支配するか、親が子を支配するか、子が親を支配するかの関係になってしまいました。

2. 国々の指導者も、国民に仕える者ではなく、指導者は、権力を乱用し、国民に仕え、国民の生活を守る者ではなく、横柄にふるまい（政治家の失言と言われますが、日頃、心にある本音が、言葉に表れるものです）、偉い人たちは人々の上に権力をふるっています（国民と違い過ぎる多額の収入を得て、国民とかけ離れた生活をしているので庶民の生活の苦勞が理解できていない）。昔も今も、主が言われた通りの事が起きています。現在の世界中の指導者の中には、権力により自分の汚職や、不正、不品行の裁判（ある国の指導者は適正な裁判官を罷免している）をさせないで、戦争をし、そちらに目を向かせている指導者もいます。正義を持って抵抗する人々を、公にならない方法で命を奪っている指導者もいます。すべてをご存知の神は最後の審判で、正しくさばられます。

II 神である主は、支配し合う関係から解放し、もう一度、神を中心に互いに愛し合い仕え合う（対話をし合う）関係、共同体（主の教会）を造るためにこの世に来てくださいました。壮大な神の御計画！

1. 「（王の王、主の主で偉大な神である）人の子（キリスト）が仕えられるためではなく（横柄な支配関係ではなく）仕えるために、また多くの人のための贖い（支配という根本的な罪の償い、贖い、永遠の救い）の代価として、自分のいのち（十字架の血）を与えるために来たのと、同じようにしなさい（支配し合うのではなく仕え合いなさい、対話をし合いなさい）」：28。主の祈りの「御国（神の支配）が来ますように」の意味＝「悪魔、永遠の滅び、罪、悪、自我、人の支配から解放され、恵みとまことに満ちた神の御支配が、私たちの心に、この世に来ますように」。この意味を込めて主の祈りを祈りましょう。

2. 「あなたがた（主を恵みとまことに満ちた支配者、主、救い主として受け入れる人々）の間では、そう（横柄な支配、権力を自分勝手に振るう者）であってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者（正しく誠実で思いやりのある指導者になりたい者）は、皆に仕える者（横柄な支配者ではなく国民に仕える者）になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者（誠実で思いやりのある指導者になり人々を正しく導き支えたい者）は、皆のしもべ（謙遜で対話をする）になりなさい」：26, 27。
3. 神が新しくされる夫と妻、親と子ども、社会での経営者と働く人の関係の土台となる重要なみことばがあります。これを見逃してはいけません。それは＝「キリストを恐れて、互いに従い合いなさい」エペソ5：21。これは、すべての人間関係の鍵となるみことばです。多くの結婚式で、「妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい（間違っただことにも従いなさいではない）」から読まれます。私は、この大きな間違いを教えられてからは、必ずエペソ5：21の「キリストを恐れて、互いに従い合いなさい」の鍵、土台のみことばから説教するようにしています。「神の前に夫と妻は人格的に対等であり、まず主を恐れ敬い、支配せず支配されず互いに従い、愛し、仕え合う存在です」と。愛の反対は「〇〇です」と語ります。親と子ども、経営者と雇用される者も同じです。人格的に対等な存在で、主を恐れ互いに支配せず従い仕え愛し合うのです。お互いの意見を尊重し、良いものを生み出していくのです。教会も教職者も信徒も主を恐れ、人を支配せず支配もされず、聴き合い、語り合い、祈りつつ物事を決めて行きましょう。

Ⅲ「支配しない、支配されない」の大切なみことば

1. 教職者、牧会者へ「割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範（完璧な牧会者はいない。神と人に誠実な姿の模範）となりなさい」Ⅰペテロ5：3。支配するとは、人の意見に耳を傾けず、いつも自分の思い通り、相手をコントロールする事。神と人に誠実な牧会者は、人の意見に耳を傾け、自分の意見も語り、人に支配されず、その対話の中で、主のみこころを確認し、教会を建て上げるために物事を決めて行く。
2. 信徒へ「あなたがたの間で労苦し、主にあってあなたがたを指導し、訓戒している人たちを重んじ、その働きのゆえに、愛をもって、この上ない尊敬を払いなさい。また、お互いに平和を保ちなさい」Ⅰテサロニケ5：12, 13。教会の中でかしら（支配者）になりたがる人がいる現実→「彼ら（教会）の中でかしらになりたがっているディオテレペスが、私たち（ヨハネ、教職者たち）を受け入れません。ですから、私が行ったなら、彼のしている行為を指摘するつもりです。彼は意地悪なことばで私たちをののしっています。それでも満足せず、兄弟たちを受け入れないばかりか、（教会が）受け入れたいと思う人たちの邪魔をし、教会から追い出しているのです」Ⅲヨハネの手紙9, 10節。※証し。自分の座の保身。教職者や信徒が追い出される教会がある。

3. 「イエス様は、私の主（かしら、主人、神、支配者、救い主）と信じ、心をイエス様に支配していただいている人は、人から支配されてはいけない」と教えるみことば＝「あなたがたは、（主の十字架の血という）代価を払って買い取られた（永遠の滅びから神のものに買い戻され救われた）のです。人間の奴隷となってもはいけません（人に支配されてはいけない）」Ⅰコリント7：23。人の言いなりではなく、主が言われることに従い、仕え合うことができますように。

Ⅳ 希望の解決のみことば。

1. 「ある人は『私はパウロにつく』と言い、別の人は『私はアポロに』と言っているのであれば、あなたがたは、ただの人ではありませんか」Ⅰコリント3：4。人につくのではなく、主のみことばにつく。教会の指導者も、自分につく信徒を育てるのではなく、主のみことばで養われ、主に固く結びつく信徒を育てて行く。「キリストご自身が、…ある人たちを牧師、教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて（みことばで霊的に養い、主につく弟子を育てる）奉仕の働きをさせ、キリストのからだ（指導者の教会ではなく、主の教会）を建て上げるためです」エペソ4：11, 12。「キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女も（差別は）ありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからです」ガラテヤ3：27－28。証し：複数の教職者がいても、分派、分裂が起きない為の主の教えとは？
2. 「私たちは、あなたがたの信仰を支配しようとする者ではなく、あなたがたの喜びのために協力して働く者です。あなたがたは信仰（恵みとまことに満ちた支配者なる主につく信仰）に堅く立っているのですから」Ⅱコリント1：24。これは、妻と夫、親と子、兄弟姉妹、すべての人間関係に適用できます。私たちは、人の支配者ではなく、協力者です。主に支配されて、互いに聞き語り対話し合い協力し合いましょう。

祈り：支配したり、支配されることなく、互いに愛し合い仕え合い、協力者になれますように！